



**Data**

監督・原案：王也民（ワン・イエミン）

出演：香川照之／戸田恵梨香／ヴィック・チョウ（F4）／ニン・チャン／エリック・ツァン／細田よしひこ／ほんこん／藤田陽子

## 👁️👁️ みどころ

インパクトのあるタイトルだが、雄黒金茶と雌黒金茶をめぐる物語はかなりマンガ的・・・？それは、冒頭6分間のアニメ映像による問題提起のせい・・・？台北を舞台とした、イケメンと美女を交えた黒金茶争奪戦の決着は「闘茶で！」となるのだが、さてその闘い方は・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■「闘茶」は造語？それとも・・・？■□■

プロレスラー兼国会議員として長年活躍してきたアントニオ猪木のキャッチフレーズは「闘魂」だが、「闘茶」なんて言葉はホントにあるの・・・？それは誰かの勝手な造語・・・？全4頁にわたる詳細なプレスシートによると、王也民（ワン・イエミン）監督が提案した企画内容と『闘茶』というタイトルにインパクトがあったため、この映画の製作が進んだらしい。また、全2頁にわたる詳細な「お茶にまつわるお話」の中には、「闘茶」についての詳しい解説があり、「宋の時代に『闘茶』という茶風習が民間でも大流行した」とのこと。『闘茶』は別名『茗戦』、つまり茶葉の良し悪しが1つの戦いとして真剣に勝負するという『茶コンテスト』とのことだ。

チラシには、そんな闘茶について簡にして要を得た明快な解説がある。それは「劇中に登場する“闘茶”とは中国福建省で生まれ、宋代に栄えたお茶の競技。参加者それぞれが茶葉を持ち寄り、その抽出法・風味、さらに様式美・精神性などを競い合う。本来、茶とは五感を開かせ、人を無欲の境地に誘うと云われ、“闘茶”においても相手より自分自身との闘いが重要であると云われている」というものだ。

そんな闘茶は現在の「評茶（ティスティング）」と似ており、「評茶師」という国家資格

もあるらしいが、その程度の闘茶ではとても映画化はムリ。しかして、ワン・イエミン監督が原案を出した『闘茶』の基本スタイルは・・・？

## ■●雄黒金茶VS雌黒金茶■●

この映画の「争点」は冒頭のアニメーションで明示されるが、その6分間のアニメのインパクトは絶大。これは、5月13日に観た天願大介監督の傑作『世界で一番美しい夜』（08年）の冒頭に絵画で明示される「争点設定」と同じ手法で、今後この手法はいろいろとスタイルを替えながら多用されそう・・・？

そこに登場するのは、現在の「闘茶」とは全然レベルが違う、殺すか殺されるかという血なまぐさい雄黒金茶と雌黒金茶の「闘茶」。その物語によると、凶暴な雄黒金茶の一族は理不尽にもやさしい雌黒金茶の一族の村を焼き払ったため、雌黒金茶は絶滅したらしい。そこから生まれたのが黒金茶の呪い。さて、雌黒金茶はホントに絶滅したの・・・？そして黒金茶の呪いとは・・・？さらに黒金茶の呪いを解く方法は・・・？なるほど、この映画はそんな展開なのか・・・？

## ■●香川照之に注目！■●

前述のプレスシートによると、「最初の脚本段階では『闘茶』は奇想天外で荒唐無稽な、コメディ映画として生まれた」らしい。しかし、「その後の作業で八木圭・美希子父娘、ルーファなどの魅力的で、内容に厚みを加えるキャラクターも加わった」とのことだ。そして、京都の老舗の茶屋「八木茶舗」の主人である八木圭役として白羽の矢が立ったのは、中国語圏で評価が高い香川照之。

私は数年前に、全然予備知識なしに観た『鬼が来た！』（00年）ではじめて香川照之を知り、その演技力のすばらしさにビックリしたことをよく覚えている。その後の『故郷の香り』（03年）や『ゆれる』（06年）、『キサラギ』（07年）等々での彼の多岐にわたる活躍ぶりは目覚ましい。さらに、私がいつも楽しみに読んでいる『キネマ旬報』の「日本魅録」は彼の手によるものだが、その連載は6月上旬号で125回だから、彼の執筆能力はすごいもの。

そんな演技派の筆頭香川照之が演じる八木圭経営の「八木茶舗」が、今は開店休業状態となっているのは一体なぜ・・・？また、戸田恵梨香演ずる一人娘の美希子が、お茶を学ぶため台湾に留学しようとしたのに、入学願書を破り捨て、「お茶に関わると災いが起きる」と父親が全く聞く耳を持たないのは一体なぜ・・・？それらはすべて黒金茶の呪いを圭が信じ込んでいるためだから、話はややこしい。この映画ではまず、そんな香川照之に注目！

## ■●舞台は台北へ！■●

「黒金茶の呪い」と雌黒金茶探しをテーマとしたこの映画のストーリーは結構ややこしい。圭は最愛の妻緑（藤田陽子）が死んでしまったのも、圭に黙ってお茶会に参加した美希子が突然倒れてしまったのも、「黒金茶の呪い」のせいだと信じているから、美希子のお茶留学（？）には断固拒否の反応。しかし、理由も聞かされないまま基本的人権を制約される（？）美希子は、たまったものではない。もっとも、たまたま美希子のアルバイト仲間である村野月彦（細田よしひこ）と一緒に茶屋の蔵に忍び込んだことによって、古い書物から美希子が黒金茶に関する謎を知ることになるのが大きな分岐点。そこで美希子は、父親との対立が決定的になると、インターネットで知り合った雄黒金茶を持っているというチャット友達と会うべく、一人台湾へ旅立ったから、以降舞台は京都から台北へ。

## ■□■「闘茶」での決着は・・・？■□■

もっとも、美希子の行動はかなり無鉄砲。美希子は美希子なりにうまく雄黒金茶をモノにしようとして台湾マフィアと接触したつもりだったが、美希子を追ってきた村野と共に逆に台湾マフィアに捕まってしまうことに。そのボスはイケメンの楊（ヴィック・チョウ）だが、さて彼の正体は・・・？

他方、圭も娘の身を案じて台北へ飛んできたが、圭が出会ったのは美しい娘ルーファ（ニン・チャン）。さて、彼女の正体は・・・？こんな風に台北を舞台として、誰もが探し求めてきた黒金茶をめぐる闘いが展開していくが、そのケリをつけるのはやはり「闘茶」によるしかない。さて、究極の茶葉を使った闘茶は、誰と誰が、どんなルールで、どんな闘いを・・・？まあ、こんなマンガみたいなストーリーを、お茶の香りを感じながら、タップリと楽しもう。

2008（平成20）年6月2日記